

発掘された弥生人の姿 ひとがた 人形・銅鐸形 どうたくがた・石庖丁 いしぼうちよう

— 茨木市 こおり 郡遺跡・倍賀 へか 遺跡の最新調査成果 —

大阪府立弥生文化博物館・公益財団法人大阪府文化財センター・茨木市教育委員会



人形土製品

茨木市の郡遺跡・倍賀遺跡で、2016年6月から行われた発掘調査では弥生時代中期～後期にかけての集落と、150基を超える方形周溝墓群が発見され、玉などの副葬品のほか、祭祀に用いられたとみられる遺物の出土が大きなニュースとなりました。特に注目されるのが、弥生人の姿をかたどった愛らしい人形や、鹿の絵が描かれた銅鐸形の土製品、重ねて埋納された石庖丁です。

本展では、これらの重要遺物をいち早くご紹介いたします。



銅鐸形土製品



鹿の絵画



石庖丁出土状況

関連講演会

2018年1月13日(土) 14:00から

場所：当館1階ホール
参加費：無料(要入館料)

定員：170名
(当日先着順・午後1時30分から受付
開館時より整理券配布)

講演 14:00～14:50

郡遺跡・倍賀遺跡の最新調査成果

三好孝一(公益財団法人大阪府文化財センター調査課長補佐)

休憩 14:50～15:00

関連報告① 15:00～15:30

魚が描かれた銅鐸形土製品

— 郡遺跡・倍賀遺跡の鹿絵画例との関連で... —

秋山浩三(当館副館長兼学芸課長)

関連報告② 15:30～16:00

弥生の人物造形—よみがえる弥生人の姿—

中尾智行(当館総括学芸員)

